

すなどり No. 197~231 編集後記

- No. 197 ☆自分の不出来は棚に上げ、編集のお手伝いをさせていただきます。(哲)
- No. 198 ☆加藤さゆり先生のご訃報に接し、加藤常昭先生が若草教会で牧師をしておられた頃のことを思い出しました。(哲)
- No. 199 ☆今号の巻頭言は、「“ご縁”と“摂理”」について執筆中の私に示唆を与えてくださいました。(哲)
- No. 200 ☆すなどり1号が発行されたのは、私が若草教会の日曜学校に通い始めて2年目、中学3年生のときのこと。“ご縁”と“お導き”を感じます。(哲)
- No. 201 ☆短い定期刊行物でも、長年にわたるものを読み返すと、各号では気が付かなかったことが見えてくるように思います。(哲)
- No. 202 ☆JR 秋田駅近くのホテルで持参のパソコンをインターネット回線に接続し、「すなどり」202号の校正をしました。(哲)
- No. 203 ☆担当授業のレポートはすべて添削して返しており、複数の所属団体の編集や校閲にも携わっているので、直接責任のない場合でもついつい口出しをしたくなる習性が身についてしまいました。(哲)
- No. 204 ☆皆様から寄せられた追悼文を拝見し、共通の思い出もあれば、その方ならではの思い出も記されていて、心打たれたり、共感したり、考えさせられたり。(哲)
- No. 205 ☆昨年11月1日、綾部市にある日本基督教団丹陽教会の主日礼拝に出席したところ、阿部千鶴子さんという95歳の方から声をかけられました。息子さんも娘さんも金沢大学に入学、若草教会に通い、息子さんは森野先生から受洗、娘さんは井上先生の司式で結婚式とのこと。(哲)
- No. 206 ☆中2のときに先輩に誘われて若草教会のCS生徒となり、高2のときのイースターに洗礼を受けました。以来、教会生活にも浮き沈みがありましたが、現在、ささやかながら編集のお手伝いをさせていただいている幸いを感謝します。(哲)
- No. 207 ☆父母の遺した写真を整理していたら、弟が通っていた野田幼稚園(若草幼稚園の前身)が昭和29(1953)年3月23日に行なった第一回保育証書授与式のプロセスと、同年のクリスマスのプログラムが見つかりましたので、若草幼稚園に史料として贈呈。(哲)
- No. 208 ☆Café & Gallery ミュゼで開催の「松本佳子・よしひろ二人展」を見てから、今号の校正作業をしました。(哲)
- No. 209 ☆Word ソフトのバージョンや設定の仕方によるのか、ふだんの手法が通用しないので、編集に手間取ることがあります。今回は文字修正のたびに、タイトルや画像がとんでもない箇所に移動してしまうので困りました。(哲)
- No. 210 ☆私が中学生や高校生の頃は“雪国金沢”らしいホワイト・クリスマスになることが多く、積雪を踏んでキャロリングに参加したことが思い出されます。(哲)
- No. 211 ☆金沢犀川ワイズメンズクラブのブリテン(月報)の編集を担当、そのホームページ版インデックスでは「今月の讃美歌」を掲載していますので、その経験などを踏まえて私も投稿してみます。(哲)
- No. 212 ☆ふだんインターネット用にも使用しているノート型パソコンのハードディスクCが満杯となり、容量が2倍のハードディスクに交換するため3月26日(日)午後に業者に預け、28日(火)夕方に受け取りに行きました。「すなどり」の編集に間に合い、ほっとしております。(哲)
- No. 213 ☆私の手元にある写真を提供して、石井愛子さんに思い出話を記していただきました。当時、私は大学4年生、たまたま帰省中だったので参加。記事を拝見して、忘れていたことを思い出しました。(哲)
- No. 214 ☆7月12日は生まれ故郷・敦賀の母方実家が空襲で焼失した日。最近のキナ臭さが気になります。(哲)
- No. 215 ☆心の“うち”も“そと”も平和であってほしいと願います。(哲)
- No. 216 ☆私の手元にある「すなどり」で最も古いのは第4号、「宣教百年のクリスマス」と題した特集号(1959年)。(哲)
- No. 217 ☆若芽つく折れし枝をば花器に生け、啓蟄や掘り起こされて虫の息、人生の卒業知らず諸事励む。(哲)
- No. 218 ☆世にも不思議なことが人間界に起きると、人はその出来事を奇跡と呼びます。でも、不思議な出来事だから非科学的・非合理的とは限りません。ペンテコステの出来事はユダヤ人がディアスポラ(元の民族居住地から離散して暮らす民族集団)の経験豊富な人たちだったからこそ、聖霊の働きによって起きえたのだと思います。(哲)
- No. 219 ☆ある雑誌に LGBT(セクシャルマイノリティ)には「生産性」がないから云々という不見識な寄稿をした国会議員がいて大問題になっています

が、「生産性」とか「社会的貢献」というのは、広い視野から捉えないといけないと、「弱いときにこそ強い」からも考えさせられました。(哲)

No. 220 ☆竹村兄による「受洗の記」を拝見して、高校2年のときに受洗した自分は何と書いていたかと思って『すなどり』18号(1962年4月)を見てみたら、受洗者自己紹介で「教会のため、フルに働き、利用されたいと思う」などと、有言不実行の証拠みたいなことを末尾に記しており、いまさらながら赤面いたしました。(哲)

No. 221 ☆天国も復活もまた時空超え、召されたのちも生きて働く。(哲)

No. 222 ☆クリスチャン、既にと未だ、その間(かん)も新たにされて代々語りつぐ。前号「思い出の写真」で「富岡和久さん」と記した箇所は、「富岡和久さんのお兄さん」と訂正いたします。お顔が似ているので、つい間違っていました。(哲)

No. 223 ☆編集段階で「すなどり」を熟読し、「教会生活の落ちこぼれ」感を深めながらも、こういう機会をお与えくださったことに感謝しております。ところで、現在74歳の私は、次年度から当教会における敬老対象となる可能性が高いのですが、そうなる前に対象年齢を1年ごとに繰り上げ、定義を80歳の段階で固定化するのが現実的のように思います。(哲)

No. 224 ☆奇跡は、超自然的でなくても、当事者の信仰のゆえに、そのように受けとめられることがあると思います。ありえないことではなく、ありえるからこそ、不思議な感銘を受けた経験があるからです。(哲)

No. 225 ☆新型コロナウイルスによるパンデミックが早く終息し、「禍転じて福となす」ごとく構造的平和がもたらされますよう、お祈りいたします。(哲)

No. 226 ☆COVID-19感染予防のために適切な対策を講じられた長老会の皆様に感謝します。(哲)

No. 227 ☆人生三四半世紀目を迎えただけのことはあるなと、よくもわるくも思いながら、編集のお手伝いをしております。コロナ禍で迷惑顔はお日さまも。(哲)

No. 228 ☆諸般の事情で主日のクリスマス礼拝から1月10日の主日礼拝まで教会の諸行事に参加できなかっただけに、特にクリスマス関係記事感銘深く拝読しました。(哲)

No. 229 ☆礼拝説教が掲載されている文書の編集委員を担当していて“役得”だと思うことの一つに、同じ説教を何度も読み返すうちに、会堂で直接拝聴したときよりも正確に把握し、理解が深まるということがあります。このような御恵みに対する感謝の気持ちは、故・井上良彦先生の説教集の編集に携わって以来、ひとしお抱くようになりました。(哲)

No. 230 ☆個人宛てに寄せられたアンケートの設問に「コロナ渦のもとで」と「コロナ後」における「自分の信仰生活」に何らかの変化が起こると思うかという設問があったので、後期高齢者のわが身を考慮して内面的な意味で「いまのところ自分の信仰生活に変化はない」、「コロナ禍後、自分の信仰生活に変化があったとしても、コロナ禍に直接影響されてのことではないと思う」と返答。(哲)

No. 231 ☆新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行するまでは、コロナと言えば太陽や石油ストーブを想起したものです。コロナのイメージダウンを避けるには、コヴィットという略称を用いたほうがよかったですと思います。それはともかく、この感染症予防のために、会堂での礼拝でも讃美歌を消え入るような小声で斉唱しなくてはならず、感染の心配のないオンラインであっても斉唱という感じにはなりません。一堂に会して思いっきり唱和するというのが、とても意義深いことなのだと思得した次第です。(哲)

(すなどりNo197～231から転載)